

Title	水利史料の研究(野村豊編, 大阪府耕地課版)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1955
Jtitle	史学 Vol.28, No.1 (1955. 4) ,p.129- 129
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19550400-0129

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

水利史料の研究

(野村 豊 編)
大阪府耕地課版

我が國農業の基礎である水田耕作の豊凶は主として繫つて天候と水利灌漑にある。水田の水利灌漑は水田開始の遠い昔より今日まで種々考案されて井堰池溝等の施設より番水貫水越水水車の封印等の方法に至るまで實施され、其の間自ら水利慣行と水利權等は各地複雑多様である。大阪府下の一農村(南河内郡石川村)に住み近世農村庶民史料の研究に没頭される編者野村教授が其の研究の一として大阪の東南部、南河内地方の東條川、佐備川、梅川の谷に於ける舊幕時代卅五ヶ村約百軒の庄屋年寄等の舊家に傳存の數萬通の古文書等の中、永利灌漑治水等に關するもの六百通の古文書を主として整理研究されたものが本書である。

本書は史料の紹介が重點であるが、研究篇と史料篇とに分ち、索引寫眞地圖等を加えて五百頁を越える大編である。

研究篇には編者の既に中央の諸學會にて發表した收録史料による研究を主とし、其の序説にて、本研究の意義―調査の實際について記述し、各説にて、古文書に現はれた水利の地理的性格―水利と水車並に井路―反對斜面への用水引取と其の水論―番水と貫水―溜池―畑田井路の年中行事―雨乞と汲み揚げ水に關する諸研究を説明し、更に餘論として水上權に關する興味ある諸問題を紹

介し、就中、水上の村が水下の村に對する不文律の權利は今なお甚大なもので民主的であるべき諸選舉にも影響するところを述べている。

史料篇にては所藏者(卅六)毎に年代順に史料を列記し、慶長九年(一六〇四)七月廿二日寛弘寺薦池の水を四ヶ村にて毎歲クジ取りで分水する約定文書より幕末に至るものが主で、更に明治初年より大正十二年八月拾七日の用水貫水水證文までが含まれている。

本書を再讀するに水利に關して農村が如何に人力資力を吝まらず且つ其の施設を愛護し、そのため自ら利用權に就いて複雑な水論が度々繰返えされたことに鑑みて各農村の代々の責任者が後世の證據として一切の文書記録繪圖等を保存した意義を理解し得る。今日既に過去の遺物となつたこれ等の古文書類をよく保存し各所藏者が編者の研究に便利を與えたことと、この貴重史料の散逸等を慮り且つ先人の苦心の遺業を顯彰する爲めに本書印行の大阪府廳の好意とに對して深甚の敬謝を表し、編者野村教授の研究大成の近からむことを念ずるものである。

猶お、野村教授は既に、大阪平野に於ける屎尿利用の變遷、寒天資料の研究、寒天の歴史地理學研究、河内石川村學術調査報告等の四大著編があることを附記し、農業史、農村經濟史等の研究學徒に合せて必讀を奨めるものである。

(武田勝藏)

書

評